京都府市町村体制づくり支援交付金　自己評価調書

団体名　与謝野町

２．平成２９年度　京都府市町村体制づくり支援交付金事業の個別評価について
【小規模市町村支援・広域連携事業支援用　個別表】

支援区分	事業名・実施項目
広域連携事業支援	公共交通利用促進事業

事業着手前	
課題・現状	現在、公共交通の利用促進が課題となっている。鉄道は他の市町にもまたがっており、与謝野町だけで解決できるものではないので、沿線自治体という広域な単位で課題解決に取り組む必要がある。
事業概要	高齢者（65歳以上）が京都丹後鉄道（丹鉄）を利用する場合に、片道運賃の上限を200円とすることで、安価で便利な公共交通として利用の促進を図る。
期待される事業効果等	沿線自治体が連携して事業に取り組むことにより、高い発信力が得られ、相乗効果を生む。また、コスト面においても効果的に、事業を運営することができる。

事業実績			
取組状況	高齢者（65歳以上）が京都丹後鉄道（丹鉄）を利用する場合に、片道運賃の上限を200円とすることで、安価で便利な公共交通として利用の促進を図る。		
主な実績数値（出来高数値等）	与謝野町負担金　1，909千円		
期待される事業効果等に対する達成状況	○	（左の理由）	沿線自治体が協力して取り組むことで、利用者にも広く周知ができる。全体でみてみると、前年度よりも切符発行数が増えている。引き続き連携して取り組んでいきたい。

事業効果

事業効果の考え方	高齢者片道上限200円レール事業委託料（千円）※単独で本事業を行った場合の想定事業費と比較								
年度	29								
本事業を行わなかった場合に係る経費等(a)	19,062								
本事業の実績額(b)	1,909								
効果(a)-(b)	17,153								